

株 主 各 位

**第 94 期定時株主総会招集ご通知に際しての  
インターネット開示事項**  
(法令及び定款に基づくみなし提供事項)

**〔連結計算書類〕**

第 94 期(2019 年4月1日から 2020 年3月 31 日まで)  
**連 結 持 分 変 動 計 算 書**

第 94 期(2019 年4月1日から 2020 年3月 31 日まで)  
**連 結 注 記 表**

**〔計算書類〕**

第 94 期(2019 年4月1日から 2020 年3月 31 日まで)  
**株 主 資 本 等 変 動 計 算 書**

第 94 期(2019 年4月1日から 2020 年3月 31 日まで)  
**個 別 注 記 表**

**アンリツ株式会社**

当社第 94 期定時株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結計算書類の「連結持分変動計算書」及び「連結注記表」並びに計算書類の「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第 15 条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.anritsu.com/ja-JP>) に掲載することにより株主の皆様提供しております。

## 連結持分変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社 の 所有 する 持分 合計	非支配持分	資本合計
<b>2019年4月1日残高</b>	<b>19,113</b>	<b>28,207</b>	<b>33,442</b>	<b>△1,133</b>	<b>5,930</b>	<b>85,560</b>	<b>117</b>	<b>85,678</b>
会計方針の変更による 累積的影響額	—	—	△45	—	—	△45	—	△45
会計方針の変更を反映した 当期首残高	19,113	28,207	33,396	△1,133	5,930	85,515	117	85,632
当期利益	—	—	13,355	—	—	13,355	42	13,397
その他の包括利益	—	—	△214	—	△1,245	△1,459	—	△1,459
当期包括利益	—	—	13,140	—	△1,245	11,895	42	11,937
株式報酬取引	37	70	6	14	—	128	—	128
剰余金の配当	—	—	△3,365	—	—	△3,365	—	△3,365
自己株式の取得	—	—	—	△0	—	△0	—	△0
自己株式の処分	—	0	—	0	—	0	—	0
非支配株主への配当	—	—	—	—	—	—	△0	△0
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	—	—	4	—	△4	—	—	—
所有者との取引額等合計	37	70	△3,355	13	△4	△3,237	△0	△3,238
<b>2020年3月31日残高</b>	<b>19,151</b>	<b>28,277</b>	<b>43,182</b>	<b>△1,119</b>	<b>4,681</b>	<b>94,172</b>	<b>159</b>	<b>94,331</b>

# 連結注記表

## 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

### (1) 連結計算書類の作成基準

連結計算書類の作成にあたっては、会社計算規則第120条第1項に基づき国際会計基準（以下、IFRS）に準拠し作成しております。なお、同項後段の規定により、IFRSで要請されている記載及び注記の一部を省略しております。

### (2) 連結の範囲に関する事項

連結の子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 45社

主要な連結子会社の名称

Anritsu U.S. Holding, Inc.、Anritsu Company、Anritsu Americas Sales Company、Anritsu EMEA Ltd.、Anritsu Company Ltd.、Anritsu A/S、アンリツインフィビス㈱、アンリツネットワークス㈱、アンリツ不動産㈱

### (3) 会計方針に関する事項

#### a. 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### 1) 金融資産の評価基準及び評価方法

デリバティブ …………… 契約が締結された日の公正価値で当初認識し、当初認識後は公正価値で再測定しております。

デリバティブの公正価値の変動はすべて純損益で認識しております。

非デリバティブ金融資産 …………… 営業債権及びその他の債権は発生時に、その他の金融資産は取引時に当初認識しております。

##### ①償却原価で測定される金融資産

金融資産は以下の2つの要件をともに満たす場合に実効金利法を用いて償却原価（減損損失控除後の金額）で測定しております。

- ・当社グループのビジネスモデルにおいて、当該金融資産の契約上のキャッシュ・フローを回収することを目的として保有している。
- ・金融資産の契約条件が、特定された日に元本及び元本残高に対する利息の支払いのみによるキャッシュ・フローを生じさせる。

##### ②その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産

投資先との取引関係の維持・強化を目的に保有している資本性金融商品を、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産に分類し、公正価値で測定しております。

公正価値の変動額は、連結純損益及びその他の包括利益計算書においては「その他の包括利益」に計上しております。連結財政状態計算書においては「その他の資本の構成要素」に計上しており、当該資本性金融商品の認識を中止した場合には、「その他の資本の構成要素」の残高を「利益剰余金」に直接振り替えております。

金融資産の減損 …………… 償却原価により測定される金融資産については、貸倒引当金を認識しております。

貸倒引当金の認識にあたっては、「営業債権及びその他の債権」は常に全期間の予想信用損失に等しい金額で貸倒引当金の測定を行い、他の金融資産については、信用リスクの著しい増大が生じていない場合には12カ月の予想信用損失に等しい金額で、信用リスクが著しく増大した場合には全期間の予想信用損失に等しい金額で、貸倒引当金の測定を行っております。

貸倒引当金の測定においては、債務者の状況を定期的にモニタリングし、支払不履行、滞納、支払期限の延長、破産といった財務状況の悪化等の事象やそれらの兆候の有無等を評価しております。また、そのような事象及び兆候のいずれも存在しない場合には、期日経過の情報を用いて予想信用損失を見積っております。

これらの測定にあたり、個々に重要な金融資産はすべて個別に測定を行い、個々では重要ではない金融資産については、リスクの特徴が類似するものごとにグルーピングを行い、当該グループごとに測定を行っております。なお、報告日現在で要求される貸倒引当金の認識に必要な金額への修正については、純損益の中の「販売費及び一般管理費」において認識しております。

2) 非金融資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産 …………… 取得原価と正味実現可能価額のうちいずれか低い額で測定しております。棚卸資産の取得原価は、原材料は主として移動平均法、製品及び仕掛品は主として個別法に基づいて算定しております。正味実現可能価額は、通常の営業過程における見積販売可能価額から完成までに要する見積原価及び見積販売費用を控除した額です。

有形固定資産及び投資不動産 …… 原価モデルを適用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した額で測定しております。取得原価には、資産の取得に直接関連する費用、解体・除去及び土地の原状回復費用及び資産計上すべき借入費用が含まれます。

のれん及び無形資産 …………… 無形資産は原価モデルを適用し、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除した額で表示しております。企業結合において取得した無形資産の取得原価は、取得日現在における公正価値で測定しております。当初認識後は、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除した価額で表示しております。

①のれん

子会社の取得により生じたのれんは、「のれん及び無形資産」に計上しております。当初認識時におけるのれんは、非支配持分の認識額を含む譲渡対価の公正価値から、取得時点における識別可能な取得資産及び引受負債の純認識額（通常、公正価値）を控除した額で測定しております。なお、のれんは償却を行わず、毎期の減損テストにより必要な場合は減損損失を計上しております。

②開発資産

開発活動で発生した費用は、以下のすべての条件を満たしたことを立証できる場合にのみ、資産計上しております。

- ・使用又は売却できるように無形資産を完成させることの技術上の実行可能性
- ・無形資産を完成させ、さらにそれを使用又は売却するという企業の意図
- ・無形資産を使用又は売却できる能力
- ・無形資産が蓋然性の高い将来の経済的便益を創出する方法
- ・無形資産の開発を完成させ、さらにそれを使用又は売却するために必要となる、適切な技術上、財務上及びその他の資源の利用可能性
- ・開発期間中の無形資産に起因する支出を、信頼性をもって測定できる能力

③その他の無形資産

主としてソフトウェアを計上しております。

非金融資産の減損 …………… 棚卸資産及び繰延税金資産を除き、報告日ごとに減損の兆候の有無を判断しております。減損の兆候が存在する場合は、当該資産の回収可能価額を見積もっております。のれんについては年次で減損テストを行っております。

b. 重要な資産の減価償却又は償却の方法及び見積耐用年数

有形固定資産 ……………	建物及び構築物	定額法	3-50年
	機械装置及び車両運搬具	定額法	2-15年
	工具器具備品	定額法	2-20年
	土地及び建設仮勘定については、減価償却を行っておりません。		
使用権資産は、リース期間又は経済的耐用年数のいずれか短い期間で定額法により償却しております。			
無形資産 ……………	開発資産	定額法	3-5年
	その他の無形資産	定額法	3-10年
投資不動産 ……………	建物及び構築物	定額法	3-50年
	土地については、減価償却を行っておりません。		

c. 重要な引当金の計上基準

引当金は、過去の事象の結果として、当社グループが合理的に見積り可能である法的又は推定的債務を有しており、その債務を決済するために経済的資源の流出が生じる可能性が高い場合に認識しております。

引当金は、見積将来キャッシュ・フローを貨幣の時間的価値及びその負債に特有のリスクを反映した税引前の利率を用いて現在価値に割引いております。時の経過に伴う割引額の割戻しは「金融費用」として計上しております。

- 1) 資産除去費用引当金 …………… 固定資産に関連する有害物質の除去及び賃借事務所に対する原状回復の費用見積額について、資産除去費用引当金を計上しております。
- 2) 製品保証引当金 …………… 販売した物品について保証期間内に発生が見込まれる修理費用に充てるため、過年度の実績を基礎に将来の保証見込みを加味して、製品保証引当金を計上しております。

d. 確定給付制度の会計処理方法

当社及び一部の子会社の従業員を対象に、確定給付制度として退職一時金制度及びキャッシュ・バランスプラン（市場金利連動型年金）を採用しております。確定給付制度の純債務額は、制度ごとに区別して、従業員が過年度及び当年度において提供したサービスの対価として稼得した将来給付の見積額を現在価値に割り引いた額から、制度資産の公正価値を差し引くことによって算定しております。

割引率は、当社の債務と概ね同じ満期日を有する期末日の優良社債の利回りを使用しております。退職後給付債務にかかる計算は、予測単位積増方式により行っておりますが、勤続年数の後半に著しく高水準の給付が生じる場合には、定額法で補正する方式を用いております。

当社グループでは、確定給付年金制度の純額の再測定により生じる調整額をその発生時に連結純損益及びその他の包括利益計算書の「その他の包括利益」で認識し、確定給付年金制度の純額の再測定により生じた調整の累計額を連結財政状態計算書の「利益剰余金」に計上しております。確定給付制度の再測定は、数理計算上の差異、確定給付負債の純額に係る利息純額を除いた制度資産に係る収益及び資産上限額の影響の変動で構成されます。数理計算上の差異は数理計算上の仮定の変更と事前の数理計算上の仮定と実績から生じる修正額です。制度資産に係る収益は制度資産の運営から生じる収益であり、資産上限額の影響の変動は確定給付負債の現在価値を制度資産の公正価値が上回る積立超過の場合に制度からの返還又は制度への将来掛金の減額の形で利用可能な経済的便益の現在価値の変動から生じる修正額です。制度資産に係る収益及び資産上限額の影響の変動については、退職給付債務の現在価値を算定するために使用した割引率を乗じて算定された利息額を純損益に認識し、当該利息額を除いた金額が確定給付制度の再測定に認識されます。

e. その他連結計算書類作成のための重要な事項

1) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

① 外貨建取引

外貨建取引は取引日の為替レートで当社グループ各社の機能通貨に換算しております。連結会計年度末日における外貨建貨幣性資産及び負債は、連結会計年度末日の為替レートで機能通貨に再換算しております。公正価値で測定される外貨建非貨幣性資産及び負債は、その公正価値の算定日における為替レートで機能通貨に再換算しております。取得原価に基づいて測定されている非貨幣性項目は、取引日の為替レートを用いて換算しております。

再換算又は決済により発生した換算差額は、その期間の純損益で認識しております。

② 在外子会社の財務諸表

在外子会社の資産及び負債は期末日の為替レートで、収益及び費用は平均為替レートで日本円に換算しております。

在外子会社の財務諸表から発生した為替換算差額は連結純損益及びその他の包括利益計算書の「その他の包括利益」で認識し、為替換算差額の累計額は連結財政状態計算書の「その他の資本の構成要素」に計上しております。なお、当社グループはIFRS移行日現在の在外営業活動体の為替換算差額の累計額をゼロとみなす方法を選択しております。

在外活動営業体の為替換算差額の累積額は、持分全体の処分、あるいは、支配、重要な影響力又は共同支配の喪失を伴う持分の一部処分がされた場合に、処分にかかる損益の一部として純損益に振り替えております。

2) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の適用要件を満たしていないため、ヘッジ会計を適用しておりません。

3) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

4) 連結納税制度

連結納税制度を適用しております。

2. 会計方針の変更に関する注記

連結計算書類において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結計算書類において適用した会計方針と同一です。

当社グループは、当連結会計年度より、以下の基準を適用しております。

基準書	基準書名	新設・改訂の概要
IFRS第16号	リース	リースに関する会計処理の改訂

IFRS第16号では、契約の開始時に、当該契約がリース又はリースを含んだ契約であるのかを契約の実質に基づき判定します。実質的に契約が特定された資産の使用を支配する権利を一定期間にわたり対価と交換に移転する場合には、当該契約はリースであるかリースを含んだ契約であると判定しております。

リースの開始時においては、当該リースが短期リース又は少額資産のリースに該当する場合を除き、リース債務及び使用権資産を認識しております。短期リース又は少額資産のリースについては、IFRS第16号に定められた実務上の便法に基づきリース料をリース期間にわたり定額法により費用認識しております。

リース債務は、開始時現在で支払われていないリース料を、リースの計算利率で割り引いた現在価値で測定しております。リースの計算利率が容易に算定できない場合には借手の追加借入利率で割り引いた現在価値で測定しております。開始日後においては、リース債務に係る金利費用や支払われたリース料を反映するようにリース債務を増減しております。

使用権資産は、開始時におけるリース債務の当初測定額に当初直接コスト等を調整し、リース契約に基づき要求される原状回復義務等のコストを加えた額で当初の測定を行っております。開始日後においては、原価モデルを適用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除して測定しております。使用権資産は、当社グループがリース期間の終了時にリース資産の所有権を取得する事が合理的に確実である場合を除き、耐用年数もしくはリース期間のいずれか短い期間で定額法により減価償却しております。リース期間については、行使することが合理的に確実である場合のリースの延長オプション及び解約オプションの対象期間を含めております。

当社グループでは、IFRS第16号への移行により、IAS第17号「リース」の下でオペレーティング・リースとして分類していたリースについて使用権資産とリース債務を新たに認識しております。IAS第17号の下でファイナンス・リースとして分類していたリースについては、IAS第17号による帳簿価額をそのまま引き継いでおりますが、それらのうち少額資産のリースに該当するものは実務上の便法に基づき使用権資産とリース債務の認識を中止しリース料をリース期間にわたり定額法で費用認識する会計処理に変更しております。

また、IAS第17号の下で費用認識していたオペレーティング・リースのリース料については、利息法に基づき金融費用とリース債務の返済額に配分し、金融費用を連結純損益及びその他の包括利益計算書において認識しております。

IFRS第16号の適用にあたっては、当社グループでは、経過措置に準拠して遡及適用を行い、適用開始による累積的影響を当連結会計年度の利益剰余金期首残高に対する修正として認識しており、適用開始時点における契約にリースが含まれているか否かの判断については、IAS第17号「リース」及びIFRIC第4号「契約にリースが含まれているか否かの判断」のもとでの判断を引継いでおります。また、以下の実務上の便法を適用しております。

- ・特性が合理的に類似したリースのポートフォリオに単一の割引率を適用
- ・減損レビューを実施することの代替として、リースが適用開始日直前においてIAS第37号「引当金、偶発負債及び偶発資産」を適用して不利であるかどうかの評価に依拠
- ・過去にオペレーティング・リースに分類していたリースについて、当初直接コストを適用開始日現在の使用権資産の測定から除外

これらの結果、適用開始日において連結財政状態計算書に、使用権資産1,705百万円を有形固定資産として、リース債務1,758百万円をその他の金融負債として追加的に認識しております。また、利益剰余金に45百万円の減少を認識しております。連結純損益及びその他の包括利益計算書には重要な影響はありません。

なお、前連結会計年度末でIAS第17号を適用して開示した解約不能オペレーティング・リース契約と適用開始日において連結財政状態計算書に認識したリース債務の調整表は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	金額
2019年3月31日現在で開示した 解約不能オペレーティング・リース契約	1,139
2019年3月31日現在で開示した 解約不能オペレーティング・リース契約(割引後)(注1)	657
ファイナンス・リース債務(2019年3月31日現在)	186
解約可能オペレーティング・リースに係る負債計上	1,104
費用として定額法で認識される少額リース等	△3
2019年4月1日現在のリース債務	1,945

(注1) 2019年3月31日現在で開示した解約不能オペレーティング・リース契約(割引後)の金額については、非リース構成部分を分離した後の割引後の金額となっております。

(注2) 適用開始日において連結財政状態計算書に認識したリース債務に適用している借手の追加借入利率の加重平均は2.8%です。

### 3. 連結財政状態計算書に関する注記

- |                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| (1) 営業債権及びその他の債権から直接控除した貸倒引当金 | 180百万円    |
| (2) 有形固定資産に係る減価償却累計額及び減損損失累計額 | 53,887百万円 |
| (3) 投資不動産に係る減価償却累計額及び減損損失累計額  | 8,974百万円  |
| (4) 保証債務                      |           |

(単位：百万円)

被 保 証 者	保 証 金 額	内 容
当社従業員	55	住宅資金借入れ
Anritsu EMEA Ltd. 等	398	契約履行保証等

4. 連結持分変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数

	当連結会計年度 (2020年3月31日)
株式の種類	無額面普通株式
授権株式数(株)	400,000,000
発行済株式数(株)	
期首:	138,206,794
ストック・オプションの行使による増加	50,500
期末:	138,257,294
自己株式(株)	
期首:	840,435
取得による増加(注1)	319
交付による減少(注2)	△10,566
期末:	830,188

(注)1. 取得による増加は、単元未満株式の買取によるものです。

2. 交付による減少のうち、10,500株は、業績連動型株式報酬制度に基づく役員向け株式交付信託に係る信託口から役員への株式交付によるものであり、残りの66株は単元未満株式の買増請求によるものです。

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,857百万円	13.50円	2019年3月31日	2019年6月27日
2019年10月30日 取締役会	普通株式	1,513百万円	11.00円	2019年9月30日	2019年12月4日

(注)2019年6月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託に係る信託口が所有する当社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2019年10月30日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託に係る信託口が所有する当社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2020年6月25日 定時株主総会	普通株式	2,752百万円	利益剰余金	20.00円	2020年3月31日	2020年6月26日

(注)2020年6月25日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託に係る信託口が所有する当社の株式に対する配当金3百万円が含まれております。

(3) 当連結会計年度末の新株予約権(権利行使期間の初日が到来していないものを除く。)の目的となる株式の種類及び数

普通株式株 156,500株



5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

a. 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産に限定し、資金調達については銀行借入や社債発行による方針です。デリバティブは、外貨建取引に係る金銭債権債務の為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機目的及びレバレッジ効果の高い取引は行わない方針です。

b. 金融商品の内容及びそのリスク並びに管理体制

営業債権及びその他の債権に含まれる受取手形及び売掛金は顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社は与信管理規程に従い、各営業及び営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても当社の与信管理規程に準じて同様の管理を行っております。外貨建ての営業債権及びその他の債権は為替の変動リスクに晒されていますが、当社及び一部の連結子会社は、通貨別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として為替予約を利用してヘッジを行っております。（ただし、当社グループはヘッジ会計を適用しておりません。）その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。満期保有目的の債券は、資金運用内規に従い格付けの高い債券のみを対象としているため、リスクは僅少であります。また、業務上の関係を有する企業の株式は、定期的に公正価値や発行体（取引先企業）の財務内容を把握し、保有状況を継続的に見直しております。営業債務及びその他の債務に含まれる支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。また、その一部には原材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されています。社債及び借入金とその他の金融負債に含まれるリース債務は、主に運転資金に係る資金調達によるものです。借入金のうち一部は支払金利の変動リスクに晒されています。当該リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、デリバティブ（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。デリバティブは、外貨建金銭債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引及び借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。また、営業債務及びその他の債務、社債及び借入金、及びその他の金融負債は流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは各社が適時資金繰り計画を作成・更新するとともに、十分な手元流動性を維持することなどによりリスクを管理しております。

c. 金融商品（リース債務を除く）の公正価値等に関する事項についての補足説明

「(2) 金融商品（リース債務を除く）の公正価値等に関する事項」におけるデリバティブに関する契約額等については、その金額自体がデリバティブに係る市場リスクを示すものではありません。

(2) 金融商品（リース債務を除く）の公正価値等に関する事項

当連結会計年度末における連結財政状態計算書計上額、公正価値及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	連結財政状態計算書 計上額(※)	公正価値(※)	差額
a. 現金及び現金同等物	47,669	47,669	—
b. 営業債権及びその他の債権	26,550	26,550	—
c. その他の金融資産			
3カ月超の定期預金	12	12	—
その他の包括利益を通じて測定される金融資産	1,785	1,785	—
デリバティブ	17	17	—
d. 営業債務及びその他の債務	(7,948)	(7,948)	—
e. 社債及び借入金			
社債（1年内を含む）	(7,997)	(8,004)	6
短期借入金	(1,885)	(1,885)	—
長期借入金（1年内を含む）	(2,994)	(2,993)	△0
f. その他の金融負債			
デリバティブ	(51)	(51)	—

(※)負債に計上されているものについては、( ) で記載しております。

(注) 金融商品（リース債務を除く）の公正価値の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

a. 現金及び現金同等物、b. 営業債権及びその他の債権、並びにd. 営業債務及びその他の債務

現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権、営業債務及びその他の債務のうち、流動項目は短期間で決済され、また非流動項目は実勢金利であるため、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっております。

c. その他の金融資産

3カ月超の定期預金

3カ月超の定期預金については、短期間で決済されるため、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっております。

その他の包括利益を通じて測定される金融資産

上場株式は取引所の市場価格によっております。また、非上場株式は、類似上場会社比較法（類似上場会社の市場株価に対する各種財務数値の倍率を算定し、必要な調整を加える方法）により算定しております。

デリバティブ

デリバティブは純損益を通じて公正価値で測定される金融資産又は金融負債として、取引先金融機関から提示された価格に基づいて算定しております。

e. 社債及び借入金

社債

普通社債は、取引金融機関等から提示された価格によっております。

短期借入金

短期間で決済されるため、公正価値は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金

将来キャッシュ・フローを、新規に同様の契約を実行した場合に想定される利率で割り引く方法により算定しております。

f. その他の金融負債

デリバティブ

デリバティブは純損益を通じて公正価値で測定される金融資産又は金融負債として、取引先金融機関から提示された価格に基づいて算定しております。

6. 投資不動産に関する注記

当社及び一部の連結子会社では、神奈川県、東京都、その他の地域において、賃貸商業施設等を所有しております。当該投資不動産の連結財政状態計算書計上額及び当連結会計年度末の公正価値は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

連結財政状態計算書計上額	当連結会計年度末の公正価値
663	17,071

- (注) 1. 連結財政状態計算書計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
2. 当連結会計年度末の公正価値は、不動産鑑定士による評価を基礎として必要な時点修正を行うなどの方法により算定した金額であります。

7. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり親会社所有者帰属持分	685円25銭
基本的1株当たり当期利益（親会社の所有者に帰属）	97円20銭

8. その他の注記

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	19,113	28,063	0	28,063	2,468	21,719	10,177	34,364	△1,133	80,408
当期変動額										
新株の発行	37	37	-	37	-	-	-	-	-	75
株式報酬取引	-	-	-	-	-	-	-	-	14	14
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	△3,370	△3,370	-	△3,370
当期純利益	-	-	-	-	-	-	10,353	10,353	-	10,353
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-	△0	△0
自己株式の処分	-	-	0	0	-	-	-	-	0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	37	37	0	37	-	-	6,983	6,983	13	7,072
当期末残高	19,151	28,101	0	28,101	2,468	21,719	17,160	41,347	△1,119	87,480

	評価・換算差額等		新株 予約権	純資産計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計		
当期首残高	43	43	64	80,516
当期変動額				
新株の発行	-	-	-	75
株式報酬取引	-	-	-	14
剰余金の配当	-	-	-	△3,370
当期純利益	-	-	-	10,353
自己株式の取得	-	-	-	△0
自己株式の処分	-	-	-	0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△26	△26	△15	△41
合計	△26	△26	△15	7,030
当期末残高	17	17	48	87,547

# 個別注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### (1) 資産の評価基準及び評価方法

#### a. 有価証券

1) 子会社株式及び …………… 移動平均法による原価法  
関連会社株式

#### 2) その他有価証券

時価のあるもの …………… 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの …………… 移動平均法による原価法

#### b. 棚卸資産

1) 製品及び仕掛品 …………… 個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法）

2) 原材料 …………… 移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法）

#### c. デリバティブ …………… 時価法

### (2) 固定資産の減価償却の方法

a. 有形固定資産（リース資産を除く） …………… 定額法

b. 無形固定資産（リース資産を除く） …………… 定額法

ただし、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

c. リース資産 …………… 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を適用しております。

### (3) 引当金の計上基準

a. 貸倒引当金 …………… 債権の貸倒れの損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については財務内容評価法により計上しております。

b. 製品保証引当金 …………… 製品の品質保証に要する費用について今後の支出に備えるため、売上高に対する過去の実績率を基礎とした見積額を計上しております。

c. 役員賞与引当金 …………… 役員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

d. 退職給付引当金 …………… 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、計算の結果、当事業年度においては退職給付引当金が借方残高となったため、投資その他の資産の「前払年金費用」として計上しております。

過去勤務費用は、発生時に費用処理しております。また、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により、翌事業年度から費用処理しております。

### (4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

#### a. 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

#### b. 連結納税制度

連結納税制度を適用しております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1)有形固定資産の減価償却累計額	33,251百万円
(2)有形固定資産の減損損失累計額	655百万円
(3)国庫補助金等による固定資産圧縮記帳額	1,551百万円
(4)保証債務	

(単位：百万円)

被 保 証 者	保 証 金 額	内 容
当社従業員	55	住宅資金借入れ
Anritsu EMEA Ltd.等	398	契約履行保証等

(5)関係会社に対する金銭債権・債務

短期金銭債権	15,507百万円
短期金銭債務	23,421百万円
長期金銭債権	5,501百万円

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

売上高	31,544百万円
仕入高	27,525百万円
設備の購入高	218百万円
営業取引以外の取引高	2,715百万円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

株 式 の 種 類	当 事 業 年 度 期 首 株 式 数	当 事 業 年 度 増 加 株 式 数	当 事 業 年 度 減 少 株 式 数	当 事 業 年 度 末 株 式 数
普通株式	840,435	319(注1)	10,566(注2)	830,188

(注)1. 取得による増加は、単元未満株式の買取によるものです。

2. 交付による減少のうち、10,500株は、業績連動型株式報酬制度に基づく役員向け株式交付信託に係る信託口から役員への株式交付によるものであり、残りの66株は単元未満株式の買増請求によるものです。

なお、2020年3月31日現在において信託口が所有する当社株式183,600株は自己株式に含めて記載しております。

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

関係会社株式	5,024百万円
ソフトウェア	1,952百万円
未払費用	625百万円
棚卸資産	522百万円
固定資産	256百万円
その他	510百万円
繰延税金資産小計	8,893百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△5,143百万円
評価性引当額小計	△5,143百万円
繰延税金資産合計	3,749百万円

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	3百万円
繰延税金負債合計	3百万円
繰延税金資産の純額	3,745百万円

6. 関連当事者との取引に関する注記

子会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
			役員 の兼 務等	事業上の関係				
子会社	東北アンリツ株式会社	所有 直接 100%	あり	製品の製造	資金運用の 受託(注)1	5,245	預り金	5,245
					棚卸資産の 売却(注)3	5,003	未収入金	5,003
					計測器等の 購入(注)3	15,322	買掛金	1,315
子会社	アンリツデバイス株式会社	所有 直接 100%	あり	製品の購入	資金運用の 受託(注)1	3,155	預り金	3,155
子会社	アンリツネットワークス株式 会社	所有 直接 100%	あり	製品の購入	資金運用の 受託(注)1	3,171	預り金	3,171
子会社	アンリツエンジニアリング株式 会社	所有 直接 100%	あり	製品の開発	資金運用の 受託(注)1	1,381	預り金	1,381
子会社	アンリツ不動産株式会社	所有 直接 100%	あり	不動産の賃貸	資金の貸付 (注)2	5,301	長期貸付金	5,301
					資金運用の 受託(注)1	3,455	預り金	3,455
子会社	Anritsu Americas Sales Company (U. S. A)	所有 間接 100%	あり	製品の販売	計測器等の 販売(注)3	6,019	売掛金	1,956
子会社	Anritsu Company Ltd. (HKG)	所有 直接 100%	あり	製品の販売	計測器等の 販売(注)3	7,201	売掛金	2,063
					配当金の 受取	1,359	受取配当金	-
子会社	Anritsu Corp. Ltd. (KOR)	所有 間接 100%	あり	製品の販売	計測器等の 販売(注)3	2,917	売掛金	1,350
子会社	ANRITSU COMPANY INC. (TWN)	所有 間接 100%	あり	製品の販売	計測器等の 販売(注)3	4,925	売掛金	1,862
子会社	ANRITSU (CHINA) CO. LTD. (CHN)	所有 間接 100%	あり	製品の販売	計測器等の 販売(注)3	3,985	売掛金	1,584

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注)1. 資金運用の受託については、市場金利を勘案して利率を決定しており、運用期間は受託先の資金計画に基づき決定しております。
2. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を決定しており、返済期間は貸付先の事業計画に基づき決定しております。なお、担保は受け入れておりません。
3. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 636円69銭  
1株当たり当期純利益 75円36銭

## 8. 重要な後発事象に関する注記

### 連結子会社の吸収合併

当社は、2020年1月30日開催の取締役会において、当社を吸収合併存続会社とし、当社100%出資の連結子会社であるアンリツネットワークス株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社及び株式会社アンリツプロアソシエの3社を吸収合併することを決議し、2020年4月1日付で吸収合併いたしました。

#### (1) 取引の概要

##### ①結合当事企業の名称及び当該事業の内容

(1) 名称	アンリツネットワークス株式会社	アンリツエンジニアリング株式会社	株式会社アンリツプロアソシエ
(2) 事業内容	情報通信機器の開発、製造、販売	ソフトウェアの開発	シェアード・サービス・センター業務

##### ②企業結合日

2020年4月1日

##### ③企業結合の法的形式

当社を存続会社、アンリツネットワークス株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社及び株式会社アンリツプロアソシエを消滅会社とする吸収合併

##### ④企業結合の目的

当社は、利益ある持続的成長に向けた新たな取組み「Beyond 2020」を始動させ、グループ一丸となって経営理念・経営ビジョンの実現に邁進する企業へのトランスフォーメーションを進めております。かかる中、当社グループの活性化および人財力強化を図り、複雑かつ変化し続ける市場環境へ対応し新たなビジネスの創出に挑む新体制を構築するため、当社の完全子会社であるアンリツネットワークス株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社および株式会社アンリツプロアソシエを吸収合併することといたしました。

#### (2) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号）に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行っております。

## 9. その他の注記

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。